第２章

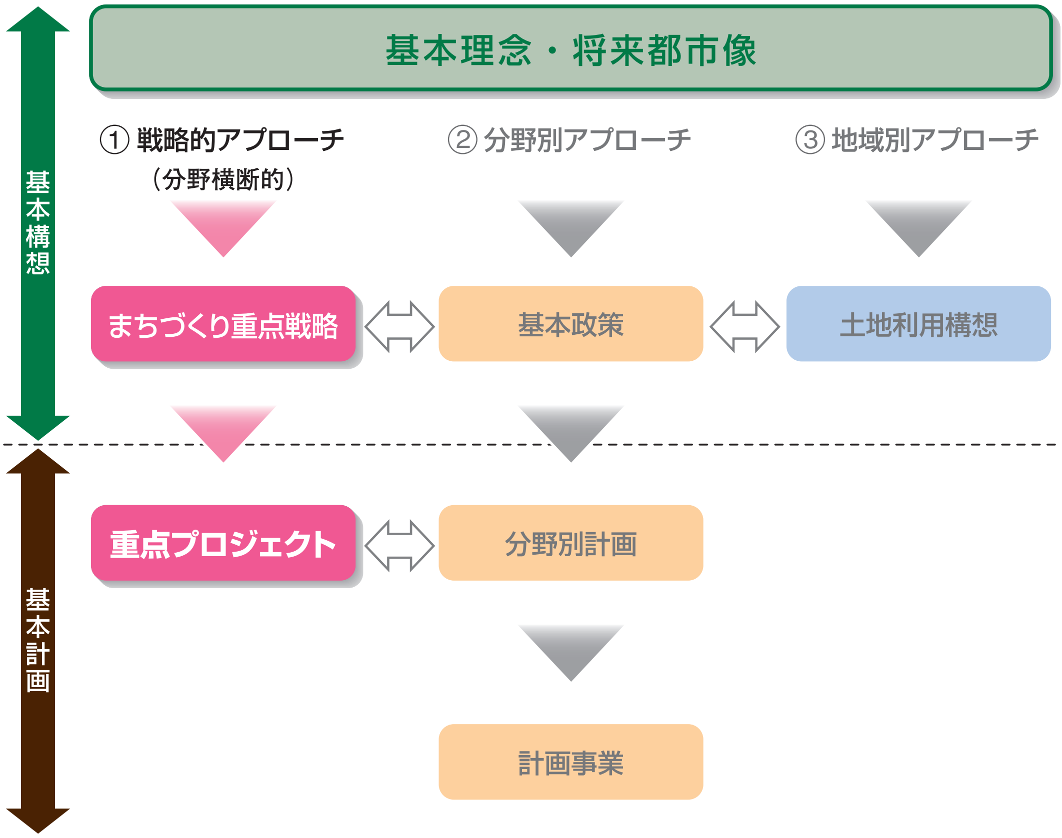
重点プロジェクト

第２章　重点プロジェクト

基本構想第２章に定めた５つの「まちづくり重点戦略」の実現に向けた基本方針と、重点的に取り組む11のプロジェクトを示します。

● 重点プロジェクトの位置付け

- 「重点プロジェクト」は、「まちづくり重点戦略」を実現するための施策群です。
- なお、「重点プロジェクト」を構成する施策を含め、まちづくりに関するすべての施策については、「分野別計画」（基本計画第３章）において目的別に体系化して提示します。



●　重点プロジェクト一覧

１　地域コミュニティでの交流による「ご近所の底力」の向上

①　地域ぐるみの課題解決プロジェクト
②　子どもが主役のコミュニティプロジェクト

２　市内の循環・交流による「地産地消[29]」の推進

①　循環による価値向上プロジェクト
②　交歓による助け合いプロジェクト

３　広域的な交流による「上越サポーター」の獲得

①　ちょこっと上越・おためしプロジェクト
②　じっくり上越・ほんもの体験プロジェクト
③　広域的都市連携プロジェクト

４　にぎわいを生み出す空間をつくる「まちの陣形」の強化

①　まちなか公共空間再生プロジェクト
②　地域の茶の間再生プロジェクト

５　学びを生み出す空間をつくる「上越学」の確立

①　上越キッズスクールプロジェクト
②　上越まるごとキャンパスプロジェクト

第１節　地域コミュニティでの交流による「ご近所の底力」の向上

地域コミュニティにおける防犯や防災、生活環境などに関する課題に加え、一人ひとりが抱える子育てや福祉、健康づくりなどの課題についても地域全体の課題としてとらえ、男性も女性も、老いも若きも、障害のある人もない人も、多様な人々が集い、共に刺激を受け、知恵を出し合い、力を合わせることによって、それらの課題の克服や理想の実現に寄与できる場や仕組みを創出します。

このことによって、一人ひとりの持つ能力が地域コミュニティの中で発揮され、そのことを生きがいに感じる人々が増えるとともに、多様な人々の相互理解が進むことによって、やさしさと力強さを兼ね備える「ご近所の底力」を持った地域コミュニティが増えていくことを目指します。

基本方針

○　個人、民間、行政よりも地域コミュニティで取り組むことが効果的と考えられるテーマや、地域コミュニティとして自主的に取り組みたいという希望があり、市全体にとっても好ましいことと考えられるテーマ、本来は個人や家庭によって克服すべき課題であっても、地域コミュニティの力を発揮することでその能力の習得を支援できると考えられるテーマなどについて整理を行います。

○　かつての地域コミュニティが様々な社会的役割を果たしていたことを十分に踏まえつつ、単にその復興を目指すのではなく、一人ひとりの生活や価値観の多様性を踏まえた緩やかな関係でありながら、その多様性を活用した力強い地域コミュニティの姿を目指します。

したがって、地域コミュニティの住民にとって、物理的・精神的に過度な負担とならないよう、選択肢の多いライフスタイルに合った参画方法の確立や、単に義務感からではなく自発的に楽しみながら取り組めるような環境づくりにも配慮します。

○　子育てや福祉、防災などのテーマに対して別々に取り組むのではなく、複数のテーマを一体的にとらえることによって共通の要因や共通の取組手法を模索し、効率的・効果的な実施を目指します。

○　市は、地域コミュニティが上記の取組を実施できる機会の提供と、頑張る地域コミュニティを支え、その取組をさらに促進する仕組みを構築するなど、市民や地域のモチベーションが高まる取組を推進します。

○　これらの交流によって、個人や家庭の力が高まるとともに、それを基調としながら再びそれぞれが助け合い、高め合う好循環を目指します。

○　ここで言う地域コミュニティとは、日常的に一定のつながりを有し、これらの取組を一致団結して行うことのできる市域を越えない任意の集団であり、町内会や学校区、地域自治区[22]などの単位にはとらわれないものとします。

主な効果

【直接的に目指す効果】

- 子育てしやすく、子どもが健やかに育つ環境づくり
- 高齢者等の生きがいづくり
- 地域の防災力や防犯力の向上

【結果として達成する効果】
- 環境保全や健康づくりの推進
- 地域資源[17]の再発見と、それを活用したささやかな所得形成機会の創出
- （市民の健康寿命の延伸や防災力の向上等による）市の財政運営の健全化
- 思いやりの心や公共心の醸成、共助の拡大
- 地域コミュニティに対する愛着と誇りの向上

重点プロジェクト

1　地域ぐるみの課題解決プロジェクト

地域コミュニティの抱える課題に対する地域一丸となった取組や、地域固有の資源を大切に守り育てながらささやかななりわい[28]を生み出す取組を自発的・意欲的に行う地域に対して、積極的かつ側面的な支援を推進します。

（取組の例）
- 合併前の上越市における地域自治区[22]の設置
- まちづくりに意欲的な地域に対する支援制度の構築
  （地域学習・活動アドバイザー制度の充実、地域発の事業提案への経済的・制度的支援など）
- 自主防災組織[42]の設置や育成の支援
- 地域資源を活用した地域密着型のビジネスモデル[43]の構築支援
- 不法投棄の解決や清流の復活等、生活環境の保全や自然環境の再生に向けた活動への支援

2　子どもが主役のコミュニティプロジェクト

学校や公園などを中心とした地域コミュニティづくりにあらゆる世代の人々が参画し、交流を深めることによって、地域内には開かれながらも犯罪等には強い空間をつくります。このことによって、子どもがのびのびと遊び、学べる環境を地域に確保し、結果的に子どもの力によって家庭や地域の絆が強まり、地域コミュニティ全体の力が高まることを目指します。

（取組の例）
- 子育て等に関する意見交換、悩み相談の場づくり
- 学習効果の高い身近な子どもの遊び場づくり
- 校庭と公園、福祉機能と子育て機能の融合の促進
- コミュニティ内での3Ｒ（リデュース[44]、リユース[45]、リサイクル[46]）の推進
  （学校給食・生ごみの堆肥化・農作業の連携、不用品の学校での活用など）
- 災害時の対応力を楽しみながら習得できるイベントの実施

第２節　市内の循環・交流による「地産地消[29]」の推進

環境、地域経済、教育、福祉などの視点から海・山・大地の持つ多様な価値を積極的に引き出し、市内の市街地と農山漁村地域とがそれぞれを支え合い、高め合う関係となるような人・ものの交流や「地産地消」を推進します。

このことによって、市民が「市街地あっての農山漁村地域、農山漁村地域あっての市街地」であることを再認識し、市内の一体性を育むとともに、自然や農に親しむ魅力的なライフスタイルを実践する人々が増えていくことを目指します。

基本方針

○　かつての「まち」と「むら」が密接な関係にあり、そのことが日常生活を形成しつつ様々な社会的役割を果たしていたことを十分に認識しつつ、単にその復興を目指すのではなく、経済のグローバル化や価値観の多様化などを踏まえ、貨幣を介さない直接的な「豊かさ」の享受にも価値を見いだした取組を進めます。

○　まちに住む人がむらに住む人を支えるといった一方的な関係ではなく、まちの生活がむらの生活を、むらの生活がまちの生活を支え、高め合う持続性のある関係を構築することによって、互いに自信と誇りを持てる生活づくりを目指します。

○　同じ農山漁村の性質を持った地域同士であっても、それぞれが地域の個性を伸ばし、支え合い、高め合う関係を構築し、交流することも視野に入れます。

○　地域経済活性化や環境保全、防災、福祉などのテーマに対して別々に取り組むのではなく、複数のテーマを一体的にとらえることによって共通の要因や共通の取組手法を模索し、効率的・効果的な実施を目指します。

○　これらの交流によって市の一体感が育まれ、そのことが市の一体的な取組を円滑に進め、再び一体感が育まれるような好循環を目指します。

主な効果

【直接的に目指す効果】

- 高齢者等の生きがいづくり
- （地域内の産業連関強化による）地域経済活性化と雇用の場の創出
- 中山間地の集落や農地を様々な視点から支える担い手の確保

【結果として達成する効果】

- （生態系のメカニズムの把握等により）環境を大切にする心や豊かな五感の醸成
- 環境保全や健康づくりの推進
- （里地里山[20]の保全活動による）景観形成や防災機能等の向上
- 将来的に予想される食糧難やエネルギー不足の時代への対応
- （災害の抑制等による）市の財政運営の健全化
- 上越市に対する愛着と誇りの向上